

P-1-6

刺絡療法の作用機序の考察：弁のない静脈系への作用

Speculation on the mechanism of wet cuppings

:effects on the valveless venous plexus

上馬場 和夫^{1,2)}, 許 鳳浩^{2,3)}

Kazuo Uebaba^{1,2)}, Feng Hao Xu^{2,3)}

1) 帝京平成大学ヒューマンケア学部東洋医学研究所

2) 医療法人ホスピター浦田クリニック統合医療研究所

3) 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科臨床研究開発補完代替医療学講座

Wet cupping has long been practiced from ancient times in the west and east traditional medicines. Although several RCTs have been reported in other countries, few studies have been conducted on the cupping in Japan. A 31 y.o. male suffering from lumbago and posterior neck pain, was treated by the Kampo medicines and wet cupping. The quick effects of the wet cupping was suspected and developed regarding venous drainage by the vertebral venous plexus and cerebral sinuses which are the typical valveless venous systems in our body. The function and pathology of the venous system should be studies and taught more.

【背景と目的】

刺絡療法は、古来から世界中の医療において頻用されてきた。刺絡は、井穴刺絡、細絡刺絡、皮膚刺絡、頭部刺絡の4つに分類される。皮膚刺絡あるいは細絡刺絡は、カップリングと呼ばれ、吸引する場所の皮膚を針などで傷つけるか否かで、ウェットカップリングとドライカップリングに分類される。中国や欧米では、カップリングの有効性を示すランダム化比較試験も数多くなされているが、日本では機序や有効性に関する科学的研究や考察が殆どない。

【症例】

31歳男性、179cm、BMI 27. BP 156/89/82. 労務によるストレス過多により身体表現性自律神経障害を2年前から来たした患者。動悸とふらつきとめまい感を感じ、さらには、左右後頸部痛と背部痛、腰痛などがある。抑肝散と柴胡加竜骨牡蠣湯を処方したが、後頸部痛と腰痛は軽減しなかったため、左右の後頸部と腰部へのウェットカップリングも行ったところ、即効した。1-2週毎のウェットカップリングに漢方薬を処方することで、ほぼ自覚症状は改善している。

【考察】

静脈血と動脈血、毛細血管血の容量は、それぞれ75%、18%、7%であり、流速も静脈系ではかなり低下する。また、静脈系には弁のない血管も多い。そのため静脈系は鬱血しやすい。椎骨静脈叢は、脳内静脈洞から脊柱管の内外に連なる弁のない静脈叢であり、200-700ml程度の容量があるが、この静脈叢の鬱血により腰神経や頸神経などを圧迫するために、腰痛や後頸部痛、肩こりなどが出現してくる可能性がある。腰部や背部の皮静脈は、椎骨静脈叢と連絡しているので、刺絡により静脈鬱滞が減圧され、腰部や頸部の神経圧迫症状などが改善して、後頸部痛や腰痛が軽減したことが推定される。

【結論】

刺絡の作用機序の一つとして、静脈系を減圧させることで、筋肉の鬱血や神経圧迫が取り除かれ、痛みが消失したと推定された。静脈系の機能と病理についての研究が必要であろう。